

自分発 大人のまちの楽しみ方 アソビノベーション入門
大人塾土曜コース 会場：セッション杉並 於：視聴覚室
第1回 平成26年6月14日(土) 10:00~12:00
講座タイトル「まちで遊ぼう！ゲストから実践例を聞く」

学習指導者：(株)エンパブリック 広石拓司

学習補助者：(株)N9・5 斎藤志野歩

杉並区教育委員会社会教育主事 中曽根

毎年開催してきましたすぎなみ大人塾ですが、多くの卒業生が生まれ、今年もたくさんの参加希望者が集まりました。学校のように勉強をする場というよりは、地域とつながるきっかけでもあり、実際に学んでいく場でもあり、1年の最後には、成果発表会もあります。すぎなみ大人塾は「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後」というキャッチフレーズを10年間つけています。大人の放課後ということで、いわゆる学校の授業のように、皆勤しないと資格が取れなかったり、終了できないということではありません。あくまで、大人の放課後というスタイルでやっていきます。みなさんお仕事もありますし、長丁場ですので、自分の時間で可能な時に参加して頂ければと思います。もし、参加できなくても、事務局が発行している新聞で前回の講座内容を見て、受講生同士で交流して情報交換もして頂いて、さらには昼から楽しくやっていただけたらありがたいです。チラシをごらんになったと思いますが、いろんな動機をもって参加されているのではないのでしょうか。講座のタイトル、チラシなど、どこに惹かれたかを教えていただけませんか。タイトルに惹かれた方？20代から40代集まれば惹かれた方？時間帯やセッションという場所では？学習支援者が広石さんだから？教育委員会の様子を見に来たという方？チラシに惹かれた方は？実は、これは人の形が切り抜きになっているんですよ。この写真に惹かれた方は、どれくらいいらっしゃるのでしょうか？それぞれ、人数が分かれましたね。みなさん、想いをもって参加されていると考えます。それぞれが持っている想いや発想の違いがおもしろさになり、遊びの幅になると思います。この、すぎなみ大人塾をきっかけに、杉並でのつながりで、みんなの楽しい場になれば幸いです。今年で、大人塾も10年目になりました。節目ということで、今までの活動を本にしようと思っています。こういったこともあり、みなさんにお問い合わせするところがあると思いますし、12月まで長丁場ですが、どうぞよろしくお願いたします。

学習支援者 広石

学習支援者の広石です。ふだんは根津に事務所をおいて、いろんな地域づくりや地域での起業をお手伝いしています。なにか新しいことを始めるときは、他人の協力が必要です。どういうふうになれば、活動を始める人を増やせるのかな、協力できる人を集められるのかな、そんなことを伝えています。大人塾では、最初の3年間は、ソーシャルアクションを教えていました。地域での活動のスタート方法を教えて、去年は、自分自身を見つめなおすということで哲学をしました。今年は、大人のまちの楽しみ方ということで、「遊び」をテーマにしています。行政の事業なのに、遊びってすごくないですか？ずいぶん、思い切ったことですよ。思い切ったといえば、大人塾のチラシをみてください。中面の写真に気づきましたか？青信号の時に、ババッと並んで撮ったそうです。こういう動きもあるほど、大人塾はどんどん進歩しています。ソーシャルアクションを考えてみたり、まちに出たり、いろんな思い出を持っています。去年の哲学も良かったので、今年も哲学をやりたいかたのですが、松坂さんは「哲学ではまちに出て行きにくいのではないか？」と話してくれました。これが、ヒントになって、まちで遊ぶって何だろうと考えるうちに、今回の企画になったのです。

今年は「遊ぶ」ということをテーマにします。なにをやるのかというと、ひたすら遊んでみるということがポイントになります。「遊ぶ」を社会教育で学んでいいのでしょうか？遊ぶというのは辞書で引くと、仕事や勉強をせず、遊技などをして楽しく時をすごすとあり、酒、色事、ギャンブルなどを楽しむ。職をもたずぶらぶらする。土地が遊んでいる。風物を楽しむ様子など、いろいろありますね。勉強しない意味の遊びを勉強するって、どういうことなのでしょう。逆に、遊べと指導されて遊ぶとは何なのでしょう。こうやって遊ぶと教えられて遊ぶのはつまらないですよ。社会教育で遊びをとりあげるとは、どういうことなのでしょう。ホイジンガという人が、「ホモ・ルーデンス」と提唱しました。遊ぶ人という意味です。ホモ・サピエンスが知恵のある人、ホモ・ファベルは作る人。そして、ホモ・ルーデンスが出てきます。「遊びは文化に先行する。すなわち遊びそのものが文化」であると。遊びは仕事をしていないとか、場所が使われていないということではなく、遊びは遊び以外の何かに貢献するというだけでもなく、遊びそのものの中において完結するもの。遊びって、ほかにはない緊張、面白さがあるからやっていますよね。休暇をとってリフレッシュというのも、実はちょっと違います。仕事の疲れを癒すのは、癒すという目的があるから遊びではなくて、遊びというのは、自由な行動。



遊びは必要や欲望など直接的な満足という過程の外にあり、役に立たない＝無益ではないのです。ホイジンガの遊びの定義を元にする、遊びと文化は、どちらが先行するのでしょうか。これをずっと考えていくのは、去年の哲学のコースですよね。でも、今年は遊びましょう。遊びに先生はいりません。ひとつ、問題があるのは、僕自身が忙しいので遊んでないといわれます。このコースに先生はいません。学習支援者として立っています。学ぶというのは、先生が教える。参加者が学ぶ。学びは参加者の主体的行為です。何から学ぶ、何を学ぶ、どう学ぶかは自分次第なんです。イチローや経営者から学んだという人もいますし、子供から学ぶという人もいます。生き方を変えた、新しい考えを得た。

そういった意味では、何から学ぶかは自分次第です。学習支援者は提案し、問いかけ、ふりかえりを手伝います。実は、学びには2種類の学びがあります。知らないこと、足りない知識を学ぶ Learning。知っていること、経験していることを捨てること Unlearning。知らないことを学ぶことだけが、学ぶではありません。映画史を知らないから学ぶ、会計を知らないから学ぶ。経験していることは学べないのかというと、そんなことはないですよ。知っていることを学ぶ。修得してきた概念を再構築することだってあります。いままで培ってきた概念、やり方へのこだわりを捨て、学ぶということです。

これを教えてくれたのが、かのヨーダ（※1）です。You must unlearn what you have learned(訳注：学んだことを、最初から学び直しなさい)。ルーク（※2）が宇宙船をフォース（※3）で持ち上げるシーンで、そんなことはムリと言います。その時に言われたのが、このセリフです。学んだことをUnlearnしなさいと諭します。

※1 映画「スターウォーズ」に登場する長老

※2 ルーク・スカイウォーカー主人公

※3 エネルギー帯

ヨーダが何を言いたかったのかを、みなさんと学びたいです。まちで遊ぶというと、飲みに行く、買い物に行くなど、消費行動を考えてしまいます。遊ぶって、なんだろう。遊びの可能性のあるものを遊んでみることで、遊びを再発見してみませんか？理屈で考えても答えがでないので、遊ぶってなんだっけ？遊びの概念をUnlearnして、探求していくのが趣旨です。学びを進めやすくなるように、提案として、場と流れをつくっています。私たちなりの学び視点を提案する場、考えてみる機会、ふりかえる機会として活用してください。社会教育ということで、遊ぶということを学んでいきますが、実は遊びのすべてが教室にあるわけではないです。ぜひ、遊んでいただいて、そこから意味や方法を見つけてください。先ほど言ったとおり、私は遊びに自信がないので、遊んでいるなという人を連れてきました。

僕では教えられない部分は、齋藤さん、長谷川さんに伝えてもらいます。

学習支援補助者 齋藤

学習支援補助者として参加しています。杉並に住んで5、6年。子供が生まれてから引っ越しました。杉並で会社を起こして、働いているか遊んでいるかわからない事業をしています。地域でつながっていくような不動産、持ち寄りで食べる食堂などを行っています。遊ぶということで、体を動かす遊びをご紹介します。借り物競走です。私自身も、様々な方の、いろんなものを借りて生きてきました。そんな生き方をしてきましたので、どこかで借り物競走したいねとずっと言っていたのです。たまたま、国分寺の商店街の方とお知り合いになり、理事の方に借り物競走をやらせてくださいと言いに行ったところ、快く承諾してくれました。



商店街の地図でお店を知ってもらい、やり方の説明をしました。去年の10月、30～40人ぐらいが集まり、それを5、6名のグループにしました。封筒が手渡され、商店街の地図と指令が書いてあります。開けるとお店の人に質問をする指令があります。そこのお店から指令書を渡され、また他のお店に行く。お店に行ったら、ご夫婦のなれそめや、売れてないもの、おすすめの商品などを聞いていきます。

また、封筒には写真が4枚ほど入っていて、これと同じ場所、モノを探して、写真を撮ってくるミッションがあります。国分寺を通っている方でも、意識していないので、なかなか写真の場所が見つかりません。4件目にいくと、借り物の指令書が入っていて、借りてくるモノは売っているものや使っているもの、なんでもありです。和菓子屋の型や和食屋の鍋だったり。どのお店も、気持ちよく貸してくださいました。商店街は買い物する場所。ところが、今回は借りる場所となったのです。普段は買う場所として存在する商店街ですが、借りるとなると、商品ではないものも借りられるんです。すると、買っている間柄とは違う普段見られない表情を見られます。借りるときはついでに何かを買うので商店街も喜びます。いつもと違う人もお店に来るので、商店街も楽しんでいました。ワークショップなども行い、学習的な側面もあって、私自身も国分寺で走り回るとしてもいませんでした。薬局のマスコットが重くて大変で、お店の方はいつもこんな重いのを出し入れしていたんだと発見もありました。こんな遊びをやってきて、遊びということと呼んで頂きましたが、今日はあまり

深く難しくとらえて頂くような内容は話せないと思います。どうぞ、気楽に聞いていただければ幸いです。よろしくお願いします。



学習支援補助者 長谷川

福島県出身で、国際協力の仕事をしていました。その後、広告代理店で営業をしていたのですが、だんだんと気持ちやすんできたので、辞めた後は自分がやりたい仕事をしようと決めて、結婚を契機に東京に出てきました。今は文京区の根津に住んでいます。根津は市民活動やギャラリーが豊富な地域です。そんな地域で、みんながもっと楽しく生きられる仕事をしたいなと思っていたら、エンパブリックという会社が徒歩3分の場所にあったのです。スゴく運命を感じました。押しかけるように入社して、今で5年目になります。谷中は、長屋のとなりに長屋があるような下町です。引っ越ししたときに、三軒隣に知り合いが住んでいました。根津スタジオにきた方がいて、近所に住んでいることがわかったのです。引っ越したら知人がいたという感じに、とてもワクワクしたのを覚えています。土日などはお茶したり、一緒に食事をしたり。いろんな人と楽しいことをしようと、谷中ロクサンマルというプロジェクトをはじめました。家と家をまたぐ流しそうめんも企画して、家の窓から庭にどうやって竹を通せるだろうかと真剣に楽しんでいます。日々楽しく過ごしていると、そのことや友人を誰かに紹介したくなります。すると、お互いの友達に告知して、精力的な活動をしている人にも出会います。流しそうめんでは、千葉県で里山活動している友人が竹をもってきて、今年3年目になります。大人同士の交流や

繋がりが増えていく実感があります。



他にも、大人が本気でぬり絵を楽しむ「ぬりぬりの会」というのをやっています。日常生活に芸術活動を入れようと芸大のみなさんを中心に活動をしています。ぬり絵って、1人でコツコツやるものとみなされていますが、みんなでやったら楽しいんじゃないかと始めたのです。場所の半分はワークショップ、半分は託児スペースにしています。また、「ぶらぶらの会」もやっていて、これは体をリラックスさせようという会です。元芸大生が中心で、体の動かし方を教えてください。また、ひとりの体をみんなでぶらぶらさせるのです。周りの人は「どうやったら、この人の体の力が抜けるのか。」自分の体だけではなくて、他人の体と向き合いを考え、遊びながらストレッチする。そのほかにも、友人や義理の父などを巻き込んで、読書会、登山をしたり、「こねこねパン教室」をしたりして、年に1回、ふりかえりの会ということでワークショップをしています。地域の音楽教室オーナーとのコラボをしている、「親子すくすくタイム」では、フルートで生演奏や合唱、みんなでランチをしたりしています。根津にあるので、芸大に入学者を輩出しているほどの教室で、次回は10回になります。「楽しいので、みんなでやろうよ」、ここから全て始まっています。わたしとしては、楽しく過ごさせていただいています。

学習支援者 広石

ありがとうございました。それでは、ペアを組んでいただいて、感想をシェア

してみてください。自己紹介は後でしますが、今までの感想と、何をしにきたんだっけ?と確認作業などをしてみてください。遊びって、いろんな遊び方がありますよね。そこで、自己紹介もちょっと工夫します。ここに、カタルタというツールがあります。トランプみたいなもので、「または」「いっぽう」「残念ながら」と接続詞がはいってます。これを使いながら、自己紹介しましょう。ちょっと試してみませんか。



学習支援補助者 長谷川

谷中の面白いところは、個性的な人がたくさん歩いていて、声をかけたくなります。

カード・「実際には」

あまり声をかけられていません。

カード・「特に」

黒縁めがねで芸大生っぽい人には声をかけたくなります。

カード・「現実的には」

おばちゃんに話しかけています。

カード・「実際」

主婦の方と立ち話をしていることが多いです。

学習支援者 広石

名前とどこから来たか、好きな食べ物を紹介ください。それからカルタを4枚めくって、そこからスタートしてみてください。もし、数が足りなかったら、まためくってください。それでは、はじめてみましょう。

グループ1

好きな食べものは、梨です。さっぱりしていてとても好きです。同じさっぱりしているのですが、スイカは苦手です。お腹が冷えすぎてしまうので。

カード・「それに」

梨のほかは、おそばが好きです。

カード・「いってみれば」

さっぱりしたもの、汁気が多いものが好きなのかもしれません。

カード・「たぶん」

年齢のせいかもしれませんが、若いときから油物は食べませんでした。体質でしょうか。

カード・「しかし」

あまりこだわりがなく、アイスも好きなのです。また、高級な梨である必要もなく。冷たくて水気が多ければ、なんでもよいのでしょう。

学習支援者 広石

如何でしょうか？さて、今度はどうやって使っていくのか、みなさんのチームでどんな引き方、どんな使い方ができるのか、どうしたら面白いのかを考えてみてください。いろんな意見を出して考えましょう。

グループ 2

- ・1人が自己紹介をやるのではなくて、みんなやると面白いのでは？つつこみをいれるような感じで。
- ・4枚はちょっと長い。テンポよくいければよいのだが。
- ・言葉で言えるのもよいが、絵をかけたら面白いね。
- ・一度自己紹介をしあってから、他人が紹介してあげるのも面白いかも。
- ・テーマが1つに絞られると、他のことを聞けないのがつまらない。もっといろいろ聞きたいな。
- ・他の人が引いて、話題を引き出すのもありだと思う。

学習支援者 広石

それでは、また10分間、やってみてください。

グループ 3

カードをひろげて、そこから何枚か引いて、言葉にそって自己紹介をする。

カード・「または」

カード・「しかも」

ずっとスポーツや身体を動かすことをしたかったのですが、なかなかできませんでした。身体を動かすこと、または身体によいことということで、最近は野菜ジュースをはじめました。しかも、家庭菜園でつくった野菜を使えるので一石二鳥です。

グループ 4

1枚めくったら、次の人に渡す。同じテーマを話していく。

カード・「そろそろ」

そろそろ、思い出づくりをしてみたいと思います。町をあげて思い出づくりを応援する企画があってもよいのでは。

カード・「いっぱい」

いっぱい、思い出は個人に帰属しているので、全員が共通するのは難しいのでは。街頭テレビなど共通したものがあればよいが。

カード・「さて」

さて、思い出作りをどうやって町でやるのでしょうか。

カード・「みかけによらず」

みかけによらず、町を愛しているかと問われると自信がない。思い出はどこにあるのか、町に関係しているのかわからない。

学習支援者 広石

面白かったというのを紹介していただけますか？

参加者

メンバー5人で物語を作りました。カードをひいて主人公を決めて、次の人にまわす。5人で1つの物語を作りました。

参加者

神経衰弱のように広げて、好きなことを話して、次の人がカードを引いて質問をしていきました。

学習支援者 広石

ぜひ、みなさんに考えてほしいのは、ルールを作るということです。正しい遊

びというのはなくて、自分でルールを作るのが遊びであり、それが楽しい。自己紹介をやっていくのもよいのだけど、物語を作ったりと、一緒にやるのが楽しいと思うのです。僕は、みなさんを教えることは何もできないのですが、ふりかえりを提案できると思います。こちらの気づいたこと、うまくできたこと、うまくできなかったことを書いて話していきます。

新しい発見があったり、感想を書いたり振り返りの時間をとっていきます。やってみて、振り返る。この繰り返しです。気づいたことなどを記入してみてください。最後にペアを組んでいただいて、感想をシェアしてみてください。3分間で、気づいたこと、学んだことを、振り返りを共有してみましょう。

グループ5

- ・しゃべりながら、自己紹介をしたけど、ゲーム的な要素は仕事でもあるような気がする。
- ・遊びを楽しめる人、好きな人、得意な人はいると思う。
- ・お店をお店としてみるか、町の一つ、自分に関係あるものなのかと考えるのはすごく参考になった。意識の変化というか。
- ・ルールは必要だと思う。あんまり自由だとなんだかわからない。

学習支援者 広石

年間のプログラムは用意していますが、みなさんがどういう時間を使うのか、時間をあわすことも学びかもしれません。みなさんで、遊んで、やってみて楽しいこと、もうちょっとよくしたいなと思ったら、変えてみましょう。僕は、ヨーダのシーンを探していたら、ワールドカップのカメルーンの試合をみてしまって。また次回にお見せしますね。土曜の朝なので、大変ですが、またお会いできることを。どうもありがとうございました。

